

紙芝居
『おんなとのさま
松寿院』

上西だより
～上西校区集落支援員だより～

西之表市地域支援課
上西集落支援員
馬場 信一 編集
連絡先 090-957
9-3953



松寿院しょうじゅいんをご存知でしょうか？
2月26日（木）、上西小学校図書室で5・6年生が松寿院の生涯を著した紙芝居を鑑賞しました。作者は村川元子むらかわもとこさん。朗読は上西小学校PTA会員の鶴岡悠子つるおかゆうこさんです。



児童の感想に耳を傾ける作者の村川元子さん。

村川元子さんは旧姓“種子島”でお分かりのように種子島家28代島主種子島時望ときもち氏の御息女です。村川さんはNHK大河ドラマ「篤姫あつひめ」で有名な篤姫の叔母に当たる松寿院について研究を進めています。左上の本は村川さんの著書『松寿院』の表紙です。



YouTube
紙芝居「おんなとのさま松寿院」
動画撮影は中原康信さん

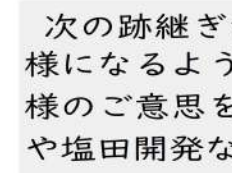


紙芝居 田村きよ子たむらきよこさん (画)
『おんなとのさま松寿院』 (抜粋)

種子島ひさごじま久道公の奥方様、おちか様の物語です。久道公の童着が大崎の平原拓治さん宅に代々伝わっていましたが、現在は鉄砲館で保管されています。



お殿様とおちか様は島の人々の暮らしを見回りながら、旅することがありました。悲しいことにお二人は四人の子どもたちを次々に亡くされてしまいました。のちにお殿様もご病気が重くなり、亡くなってしまいます。



次の跡継ぎが決まるまでの間、おちか様は名前を松寿院と名乗り、女殿様になるようにと薩摩藩からのお達示たつしがありました。松寿院様は亡きお殿様のご意思を受け継いで、島の暮らしが豊かになるよう、大浦川の川直しや塩田開発など工事を進め、島民もその熱意こたにこたえて必死に働きました。



もっとも気がかりだったのは港のことでした。そのころの港は、海の底には見えない岩があるうえに、強い西風で出入りする船が岸に打ちつけられてバラバラになることもあったのです。そこで家臣に安全な港を造るよう命じました。



松寿院様は港造りに長けた人を集め、種子島の人も木材や岩、牛馬を総動員し、互いに力を合わせて工事を始めました。千二百両という大金を薩摩藩から受けることになったのも松寿院様のお力でした。こうして安全で頑丈な、とても美しい港が出来上がり、島民たちは喜びました。松寿院様はこれまでの苦勞くるわうに思いをはせ、はるかな海をいつまでも眺ながめていました。

児童からは「今の種子島は松寿院様のおかげだと思いました」という感想が出されました。

